

平成30年における旭川市の人口動態について

1 全体概要

表1. 旭川市の年間(1~12月)人口動態 (単位：人)

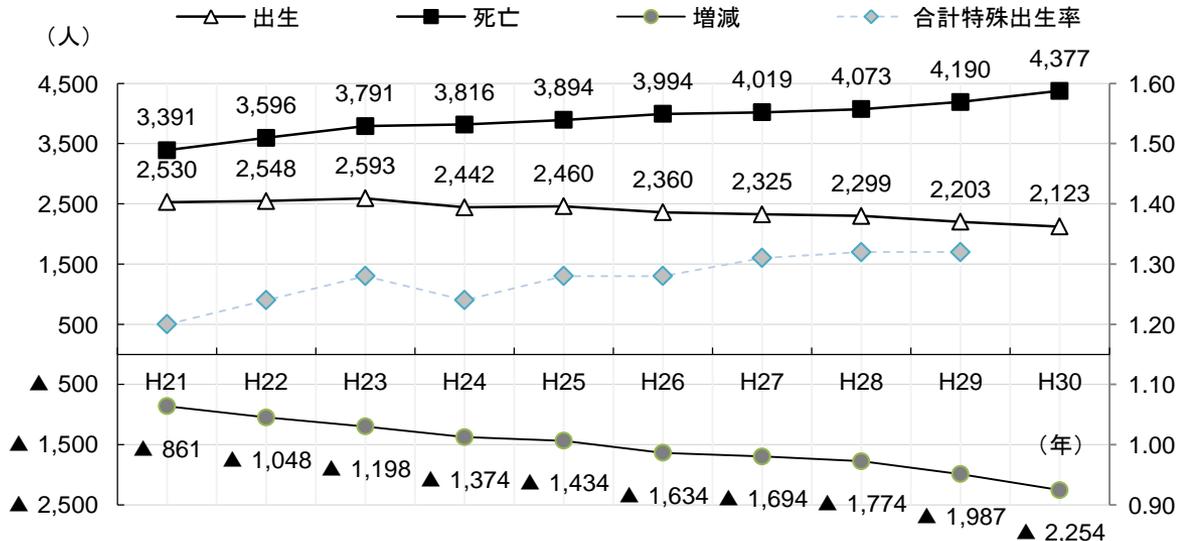
	1月1日 現在人口	自然動態			社会動態			全体 増減
		出生	死亡	計	転入	転出	計	
平成28年	342,848	2,299	4,073	▲ 1,774	11,008	11,674	▲ 666	▲ 2,440
平成29年	340,211	2,203	4,190	▲ 1,987	11,081	11,731	▲ 650	▲ 2,637
平成30年	337,392	2,123	4,377	▲ 2,254	10,862	11,427	▲ 565	▲ 2,819
H30-29差	▲ 2,819	▲ 80	187	▲ 267	▲ 219	▲ 304	85	▲ 182

(参照：統計で見る旭川(市HP))

- 平成29年1~12月における人口動態は、2,819人の減少で、自然減2,254人、社会減565人
- 自然減は前年比267人拡大、社会減は前年比85人縮小となった。

2 自然増減の推移

図2-1. 旭川市の年間(1~12月)自然増減の過去10年間推移



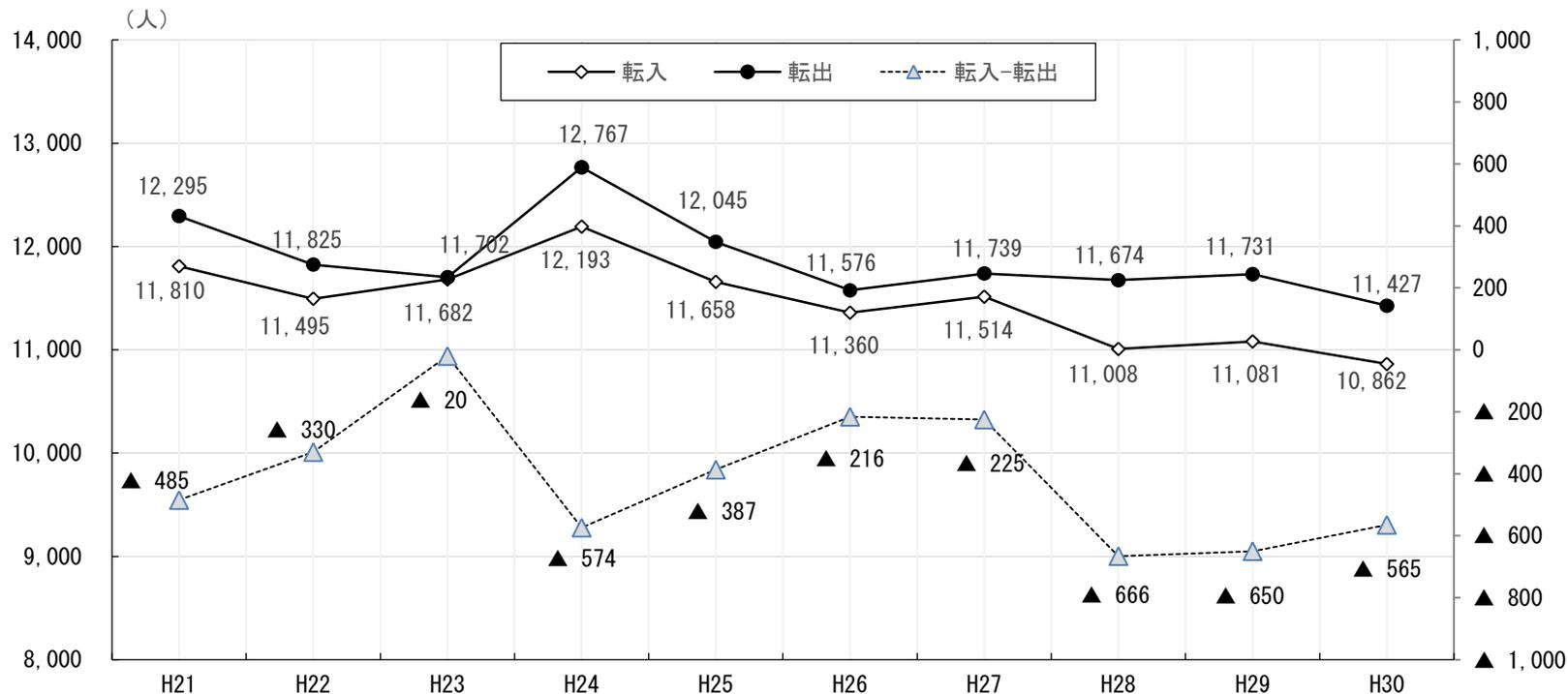
- 死亡数は、増加が続いており、平成30年は前年より187人多い、4,377人となっている。
- 出生数は、平成26年以降、毎年減少を続けており、平成30年は前年より80人少ない、2,123人となっている。

(参照：統計で見る旭川(市HP)ほか)

3 社会増減の状況

(ア) 推移

図3-1. 旭川市の年間(1~12月)社会増減の過去10年間推移



(参照:統計で見る旭川(市HP))

- 平成30年の転入者数は、10,862人で前年より219人減少し、過去10年間で最も少ない水準となっている。
- 平成30年の転出者数は、11,427人で前年より304人減少し、こちらも過去10年間で最も少ない水準となっている。
- 結果、社会増減数(転入-転出)は、前年より85人減の565人の転出超過となった。

(イ) 地域別転出入状況

図3-2. 過去5年間の道内移動

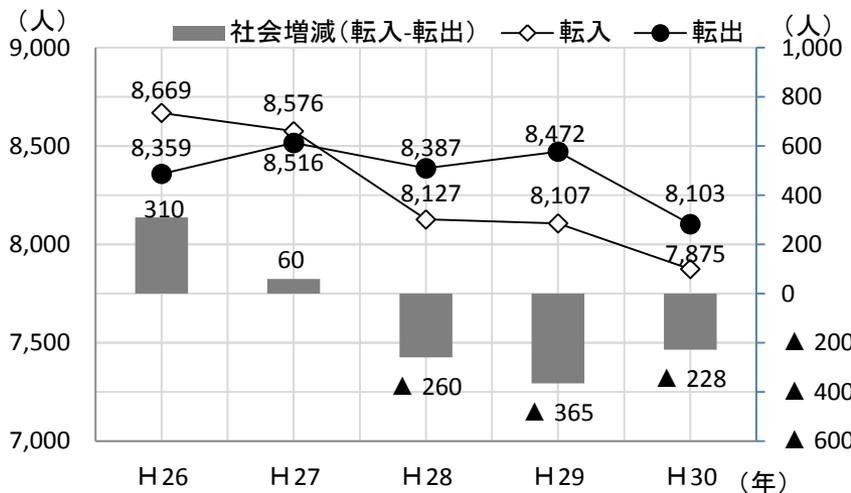
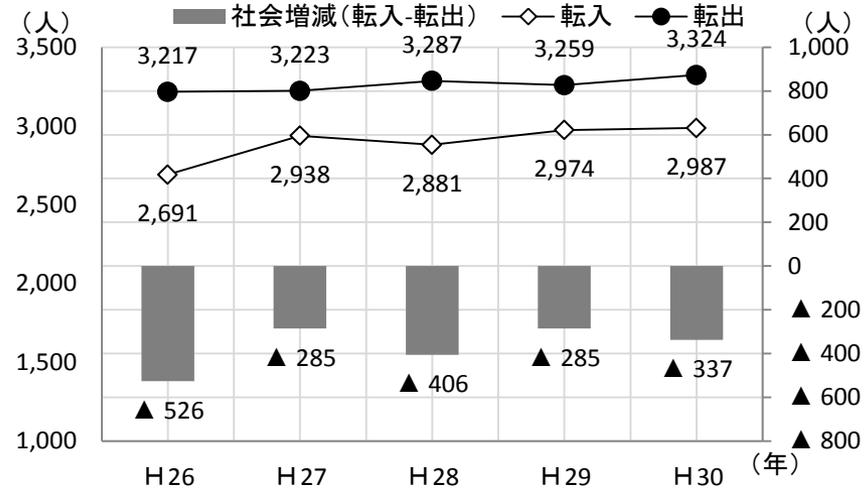


図3-3. 過去5年間の道外移動



(※図3-3は職権登録、削除分を含む。)

図3-4. 道内地域別社会増減(転入-転出, H28~H30年)



【主な特徴：道内の転出者数、転入者数ともに減少】

- (図3-2) 道内移動における転出入では、転入者数減少が続いている一方、転出者数が369人減と近年に無い大幅な減少となったため、転出超過数は前年より137人減の228人となっている。
- (図3-3) 道外移動における転出入では、転入が前年より13人増、転出が前年より65人増で、転出超過数は前年より52人多い337人となっている。
- (図3-4) 道内移動の14地域別比較では、石狩地域への転出超過が前年より166人増加し拡大傾向。上川、オホーツク地域からの転入超過数は微減傾向、空知、留萌地域からの転入超過数は微増傾向となっている。

(ウ) 男女別転出入状況

図3-5. 男性・移動推移

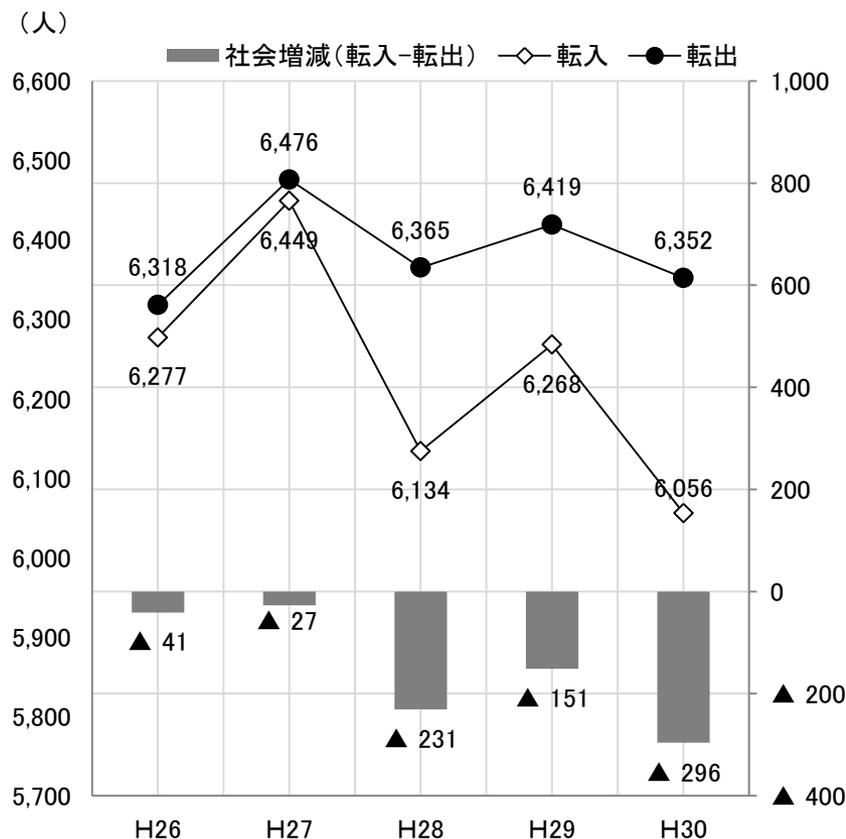
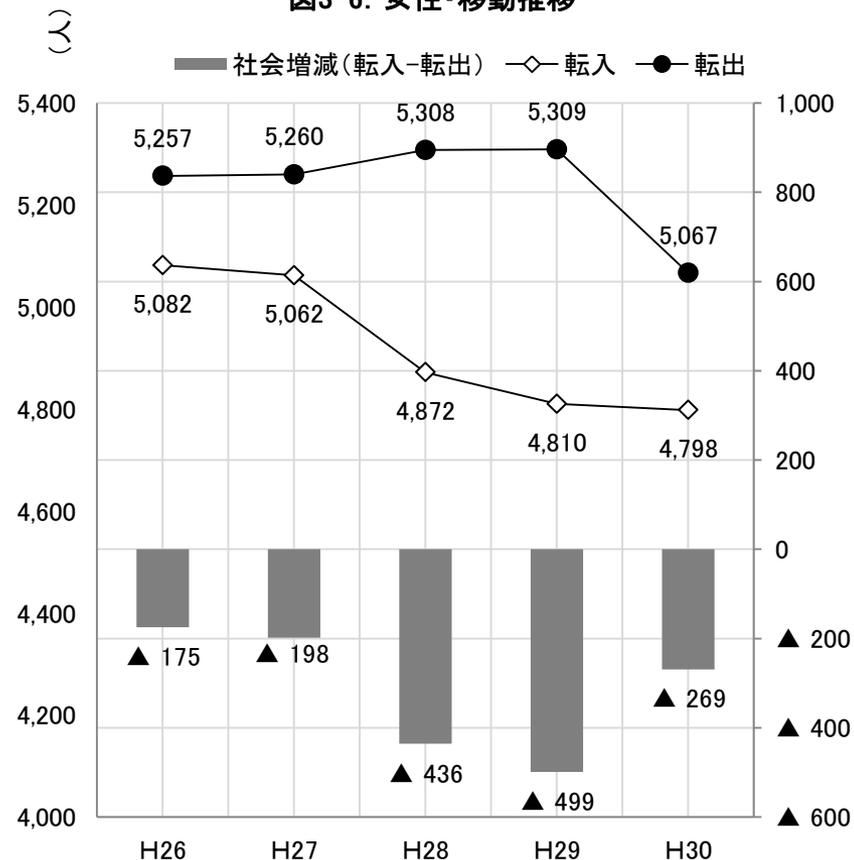


図3-6. 女性・移動推移

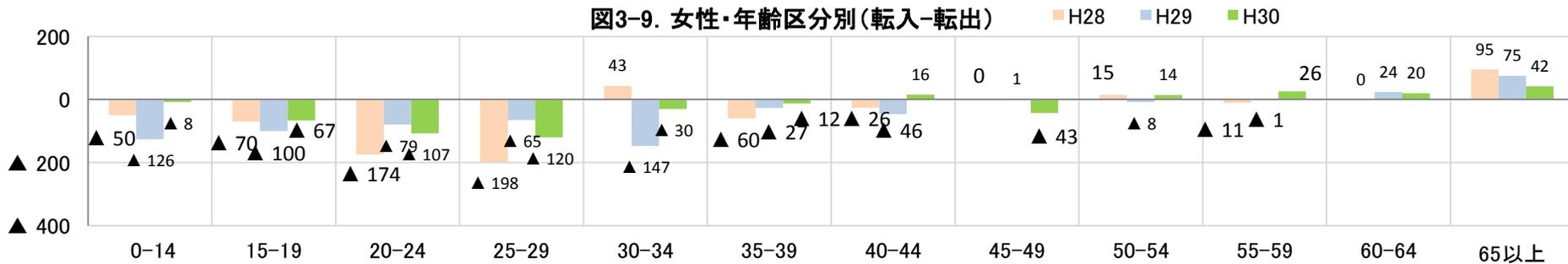
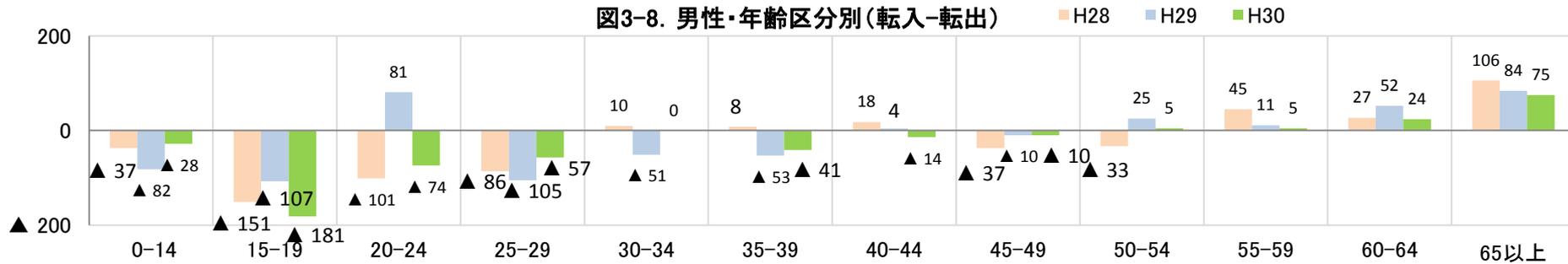
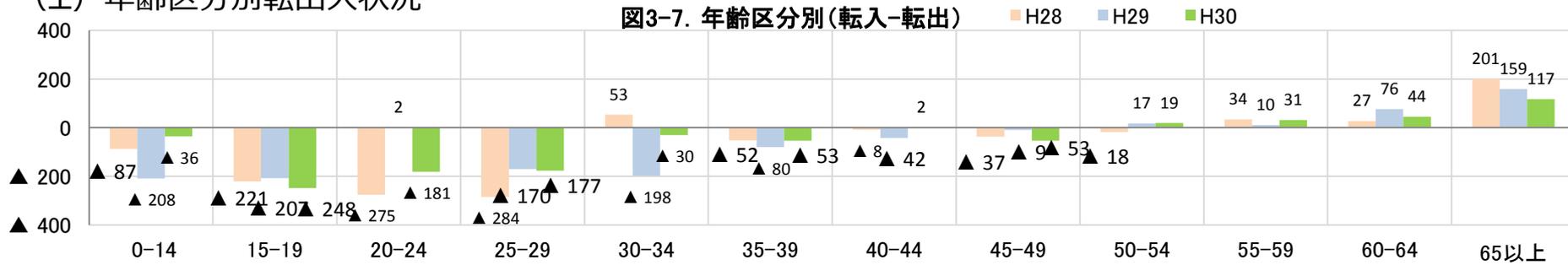


(※図3-2, 3とは一部合計数が一致しない。)

【主な特徴：男性の転入と女性の転出が大きく減少】

- (図3-5) 男女別の転出入では、男性は転入が前年より212人減少、転出が前年より67人減少し、転出超過数は前年の151人から145増の296人となった。
- (図3-6) 女性では転入の減少が続いており、H30年も前年より12減少した。一方、転出は前年までの増加傾向からH30は前年より242人の大幅減少となり、転出超過数は269人と前年より230人の減少となった。

(工) 年齢区分別転出入状況

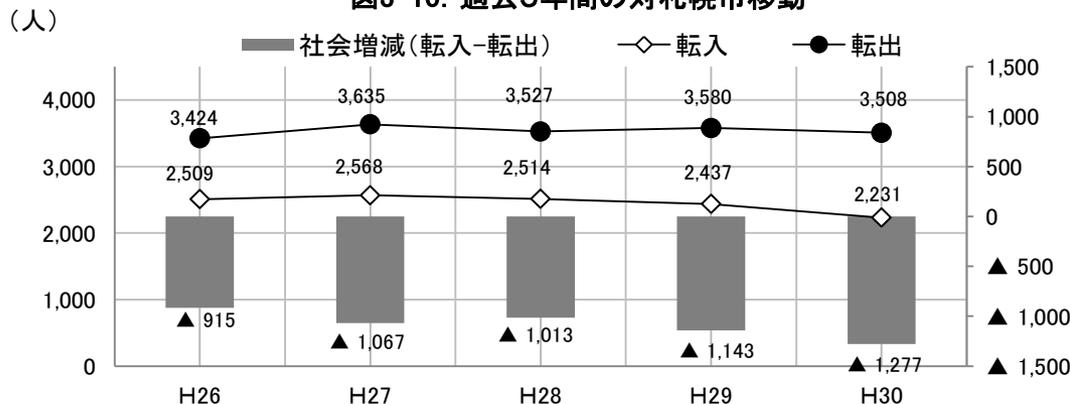


【主な特徴：15歳以上30歳未満の転出超過数が拡大，65歳以上の転入超過数が縮小】

- (図3-7) 年齢区分別では、前年より15-19歳，20-30歳などで転出超過数が拡大した一方，0-14歳，30-34歳などで縮小した。また，65歳以上の転入超過数が男女とも2年連続で縮小している
- (図3-8) 男性では，15-19歳，20-24歳などで前年より転出超過が拡大した一方，0-14歳，25-29歳などで縮小した。
- (図3-9) 女性では，20-24歳，25-29歳などで前年より転出超過数が拡大し，0-14歳，15-19歳，30-34歳などで縮小した。

(オ) 対札幌市転出入状況

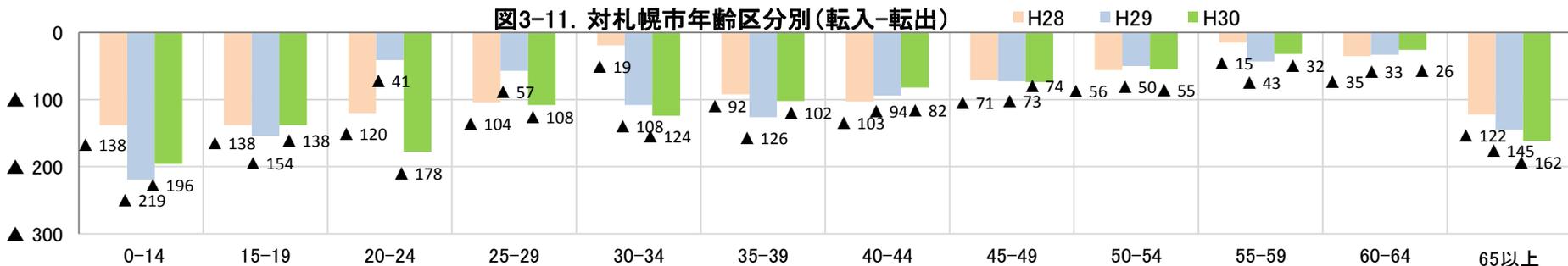
図3-10. 過去5年間の対札幌市移動



(図3-10)

道内移動でも最も転出超過となっている対札幌市との転出入は、2年連続で転出超過数が拡大している。H30年は前年より転出、転入ともに縮小したが、転出減(▲72人)を転入減(▲206)が大きく上回ったことで転出超過が拡大した。

図3-11. 対札幌市年齢区分別(転入-転出)



(図3-11) 年齢区分別では、すべての区分で転出超過となっているが、前年と比較して、特に20～29歳で大幅に拡大している。

4 平成30年における人口動態のまとめ

- 人口減少分の約80%を占める自然減(出生-死亡)については、拡大傾向が続いており、主に自然減を要因とする人口減少、超高齢化が進行すると見込まれる。また、若年層の転出超過が続いており、合計特殊出生率の上昇傾向にも関わらず出生数が減少する要因となっている。
- 社会減については、全体としては前年より85人縮小(▲650→▲565)したが、道内からの転入減少傾向が続いており、特に札幌市からの転入者数が大きく減少した結果、札幌市への転出超過数は拡大している。また、男女別では男性の転入者数が大きく減少する一方、女性の転出者数が減少した。年齢階層別では依然として40歳以下の若年層で転出超過となっている。